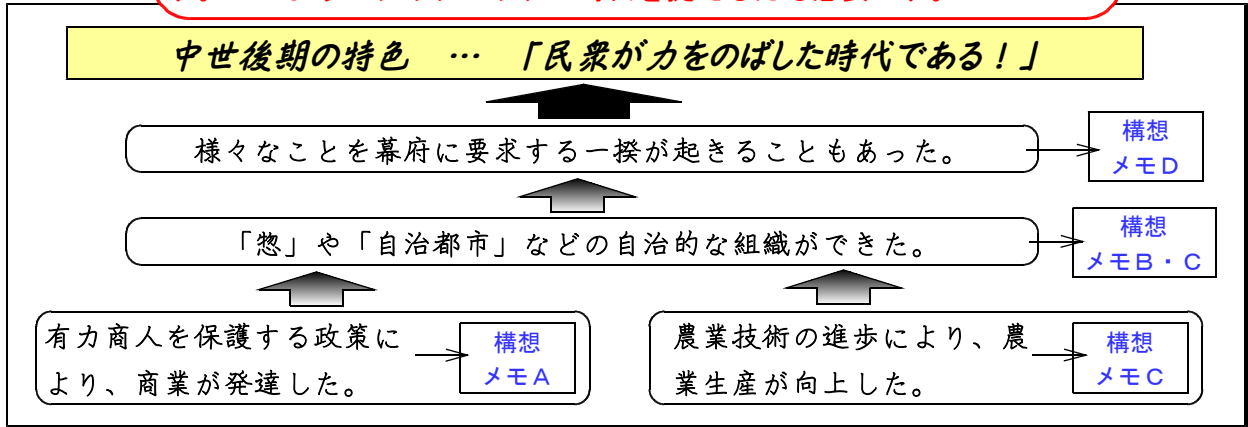


中世後期（民衆の生活の変化）	（ ）組	氏
	（ ）番	名

志保さんたちのクラスでは、中世後期（室町時代）の学習を終えた後、時代の特色をテーマごとにまとめることになり、志保さんは「民衆」の視点からレポートを作成しようと考え、様々な資料を集めました。次の資料1は、集めた資料をもとに志保さんが作成したレポートの下書きです。資料1に関する後の各問いに答えなさい。

資料2～5は、構想メモA～Dを構造的に示した下書きとなっています。このようにダイナミックに時代を捉える力も必要です。

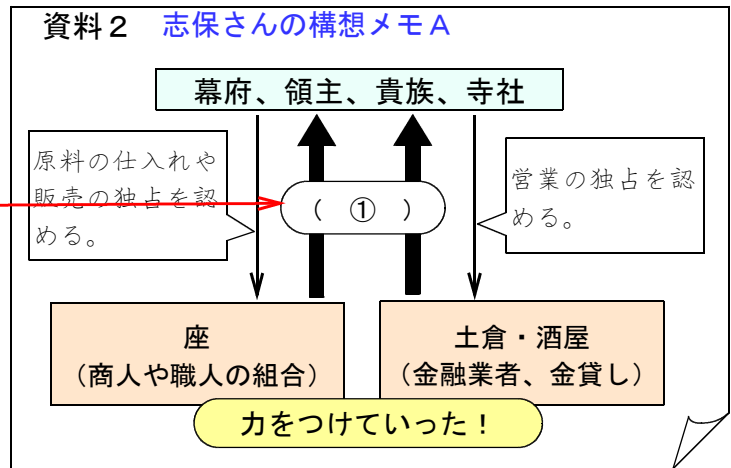
資料1



(1) 右の資料2中の「幕府、領主、貴族、寺社」は、座や土倉・酒屋に独占を認め

座や土倉・酒屋などがどのようにして力を付けていったのかを理解しておく必要があります。

税（営業税）を納めさせることで利益を得ていた。



(2) 堺や博多などは寄合によって都市の政治が行われ、自治都市として成長しました。

資料3の(2)に適した自治都市の名を、次から一つ選んでください。

安土	博多	都市名
堺	大阪	

堺

図：(2)の都市の様子



資料3 志保さんの構想メモB

港と堀に囲まれたこの町では、会合衆（えごうしゅう）とよばれる36人の有力な商工業者たちの相談による町の運営が170年間も続いた。

「耶穌会士日本通信」

(2)の町は甚だ広大にして大なる商人多数あり。この町はベニス市(イタリアの都市)の如く執政官(会合衆)によりて治めらる。日本全国、当(2)の町より安全な所なく、他の諸国において動乱あるも、この町にはかつてなく…(中略)…皆平和に生活し、他人に害を加ふる者なし。

(とうほう「資料日本史」より作成)

(3) 鎌倉時代に広まった二毛作にもうさくに加え、室町時代になると、近畿地方では資料4中の下線部にある「三毛作さんもうさく」も行われていた。

「三毛作」とはどのような農業か。資料4中にある朝鮮使節の日記「老松堂日本行録」の記述から読み取って説明

資料の内容をしっかりと読み取ることが大切です。

初夏から初秋にかけて「米」、初秋から初冬にかけて「そば」、初冬から初夏にかけて「麦」というように、一年間で三つの異なる作物をつくるような農業である。

資料4 志保さんの構想メモC

有力農民を中心とする「惣(村)」という自治組織が成立していった。

次の技術などにより農業生産が向上した！

- 肥料の工夫
- 灌漑(かんがい)の工夫
- 近畿地方での三毛作

「老松堂日本行録」※朝鮮使節、宋希環の日記

日本の農家は、…(中略)…初夏に麦を刈りて稲の種もみを種まき、初秋に稲を刈りてそばを種まき、初冬にそばを刈りて麦を種まく。一つの沓(田)に一年に三たび種まく。乃ち川の流れをせき止めて灌漑すれば水田となり、川のせきをきって田の水をなくせば則ち乾田(畑)となる。

(とうほう「資料日本史」より作成)

資料5 志保さんの構想メモD

民衆の力が強まったこの時代では、農民や武士たちが団結して一揆を起すことも少なくなかった。

1428年の「正長の土一揆しょうちよう つちいっ き」や1441年の「嘉吉の徳政一揆かきつ とくせい」などは、一般民衆が幕府に対して「徳政(令)」を求めるダイナミックなものもあり、嘉吉の徳政一揆のように、幕府に徳政令を出させるのに成功したものもあった。

(4) 資料5のように、この当時の一揆では、民衆が幕府に対して「徳政(徳政令)を求める」ものも多かった。「徳政(徳政令)を求める」とは、具体的にはどのようなことを要求していたのか、下の資料6・7の下線部を参考にして、説明しなさい。

借金を返さなくて良い(帳消しにする)ことを求めるものであった。

資料6 正長の土一揆

—「柳生の徳政碑文」—

正長元年より以前は、神戸四か郷に負債ふさいあるべからず。

(とうほう「資料日本史」より作成)

資料7 嘉吉の徳政一揆

—「建内記」—

嘉吉元年、京都周辺の土民蜂起す。土一揆と号し御徳政と称し、借物を破り、わずかな銭を払って質入れしている品物を強引に取り返す。

(とうほう「資料日本史」より作成)